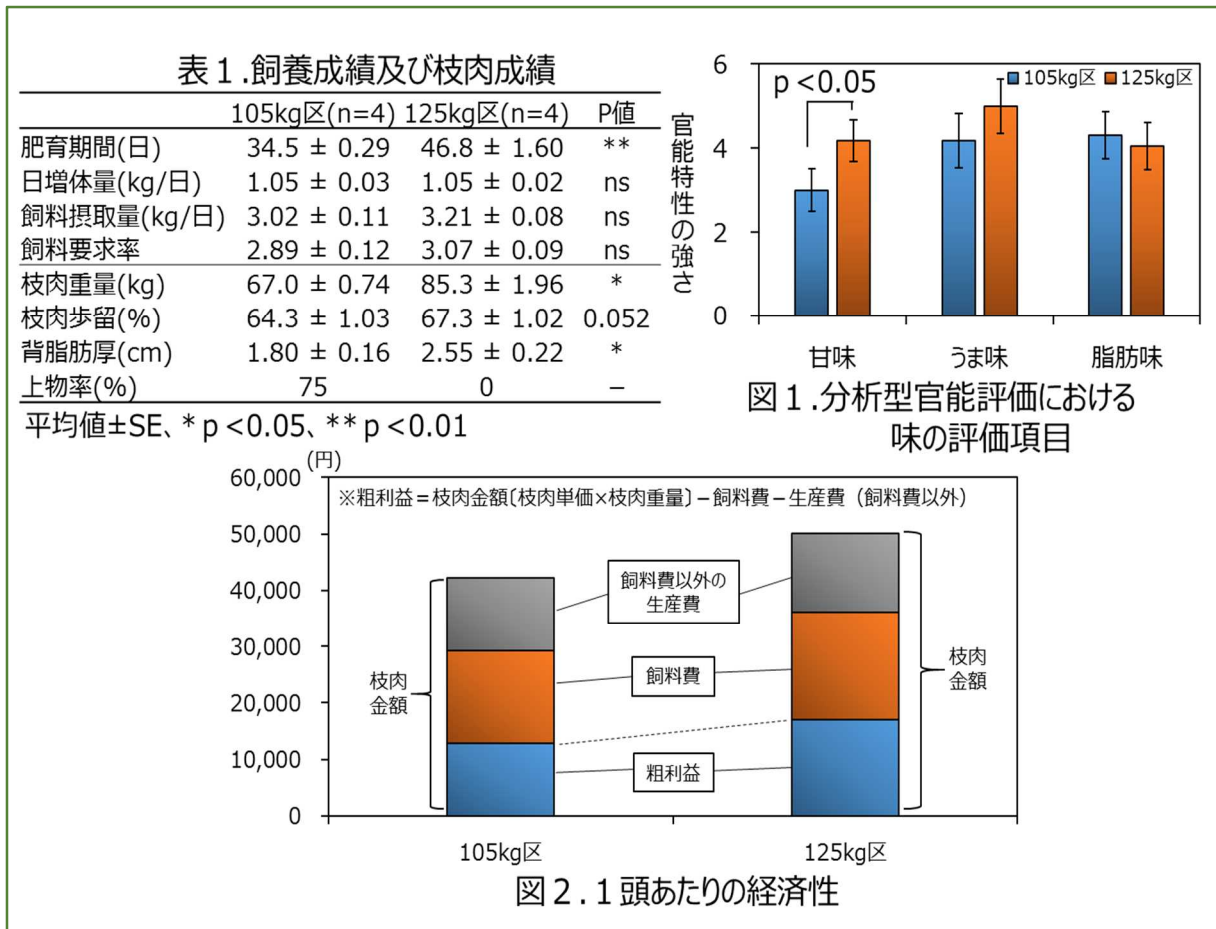


肥育豚の出荷体重を 125kg にすることによって 格落しても粗利益が向上した。

豚の出荷体重は、(公社)日本食肉格付協会の豚枝肉取引規格が目安とされており、格付「上」となるため、肥育豚は約 105~120kg で出荷されるのが一般的です。これを外すと、枝肉は小さすぎても大きすぎても「上」に格付されず、高い単価が得られなくなります。特に枝肉重量が大きすぎると、厚脂などにより格付が落ち、単価も下がりますが、「格付が落ちて厚脂の方が脂がのっておいしい。」という意見も聞かれます。

そこで今回、出荷体重を 105kg と 125kg に設定した際の豚肉の品質特性の違いについて試験を実施した結果について紹介します。



- 飼養成績と枝肉成績は、105kg 区と比較して 125kg 区で肥育期間が長くなりましたが、日増体量、1 日当たりの飼料摂取量、飼料要求率に有意な差は見られず、枝肉重量や枝肉歩留が高くなりました(表 1)。
- 豚肉の品質特性については、分析型官能評価の味の評価で、125kg 区の方が、甘味が強くなる結果となりました(図 1)。
- 1 頭当たりの経済性については、枝肉単価を、105kg 区は 631 円、125kg 区は 589 円(出荷期間中の格付「上」「中」「並」の平均価格)として試算したところ、販売金額は 125kg 区の方が高くなりました。肥育期間の延長により生産費・飼料費が増加しましたが、枝肉金額からそれらの経費を差し引いた粗利益は高い結果となりました(図 2)。